

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

千葉大学

前期日程

科目

英語

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	200~400点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

読解の大問2題, 英作文1題の計3題で, 英作文問題が昨年より1題減った。
 読解問題I, IIはどちらも読みやすく, 内容的にも面白い題材。Iの英文が短くなった上に, I, IIを合わせた設問数が昨年の14題から12題に減ったが, 記述量は相変わらず多い。
 IIIは昨年と大きく出題形式が変わったので, 多少とまどった受験生も多いと思われるが, 問題自体はかなり易しい部類に入る基本的な問題。

〈特記事項・トピックス〉

IIIの英語表現問題がA, Bの2つに分かれ, Bで久々に和文英訳問題が復活した。

〈合格への学習対策〉

読解問題に関しては, 記述式が中心であるが, 英文の難易度はそれほど高くないので, 他大学の同傾向の過去問などを利用して, 内容説明などの練習をしておけばよいだろう。また, 様々な分野の英文を読んで, 語彙を増やす訓練も必要である。
 英作文については, 相変わらず出題傾向が一定しないが, 来年以降も問題の極端な難化は考えづらいので, 標準的な問題がきちんとこなせるだけの英語表現力を身につけておけばよいだろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述	読解(英文和訳, 内容説明など) 「判断における理性に対する直感の優位性」	下線部(1)の one too many という言い方に戸惑った受験生が多いと思われる。 冒頭に例としてあげられた実験方法がつかみにくかったかもしれない。	やや易
II	記述	読解(内容説明など) 「動物における故意に相手を騙す行為」	内容がわかっても解答がまとめづらい問題が多い。 下線部(5)の in its entirety は知らなかった学生が多いと思われる。	標準
III	記述	A. 英作文(対話文完成)	新傾向の問題だが, レベルは基本的。	易
		B. 英作文(和文英訳, 英文補充)	新傾向の問題だが, 本文の中にある単語が使えるので, 比較的解答しやすかったと思われる。 (2)は主語の選定に戸惑った学生も多いと思われる。	やや易

「問題レベル」は, 本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に, 問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので, 総括の難易度(昨年比)とは連動しません。